

小田ゆきのぶ が、チャレンジしたい未来に向けたまちづくり

1. 大学など高等教育機関の誘致について

福津市には近隣自治体のように大学等の高等教育機関がありません。大学等が福津市に立地することにより、研究室や学生の皆さんと行政や市内団体との交流が生まれることで、市の総合的なプレーンとなることが期待できるものと考えています。また、学生の皆さんが、市内の多様な活動における協働者となって頂ければ、各種活動の幅が広がるものと期待されます。

経済的には学生の皆さんが市内店舗や事業所のアルバイト等の労働力となって頂けることも考えられ、市に活力を与えてもらえるものと思います。さらには、学生の皆さんの生活基盤のサポートを市内の方々が行うことによるプラスの経済循環を期待したいと考えています。

しかし、この少子化の時代に、新たな大学誘致が可能なのか？との疑問を抱かれる方も多いと思います。現在全国の多くの大学が少子化による対象年齢人口減少のため、学生の確保に懸命となって努力をされている実態があるのは十分に承知しています。

私は今後の人口減少社会の中で、国全体の国土形成の変化が徐々に進行して行くと考えています。その中で、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡といった大都市圏への学生の集中の流れが益々進むことも十分に考えられるのではないのでしょうか。福岡都市圏は今後、九州のみならず西日本の拠点都市となっていくことと思います。

その福岡都市圏の中の東に位置し、北九州市にも近く、環境が良く、土地も十分にある福津市に、大学の統廃合や老朽化した校舎の再生等を契機として、他地域から移転立地してくる可能性はゼロではないと考えます。チャレンジ（挑戦）する価値は十分あるものと考えています。

まちは、「現状維持の方針のもとでは衰退していく」ものと、長い行政経験の中で感じています。チャレンジや投資は必要だと考えます。市財政の安定とともに、将来に向けた投資の両面を、バランス良くコントロールすることが重要であると思います。

これはチャレンジです。皆さまとご一緒に挑戦できればと思います。

取組 「識者と連携し、トップセールスに取組みます。」